

枚方教育

No. 1801
2019. 2.18

枚方教職員組合
枚方市西禁野一・一・三
TEL 八四八・三三〇〇
FAX 八四八・三〇五二

あなたがあなただから すばらしい 子育て・教育に「個人の尊重」を生かそう

19回めとなった「枚方の教育を語り合う父母・市民と教職員のつどい」(主催:つどい実行委員会)が2日、市民会館で開かれました。60人の父母・市民と教職員の熱心な論議で、給食問題・若者の育ち・支援教育の現状や課題を深めあいました。

かけがえのないあなただから

全体講演では、きづがわ共同法律事務所の宮本亜紀さんが、「憲法が輝き、生きる子育てを！」と題してお話をしました。

宮本さんは、自らも0才6ヶ月と3才の2児の母親として憲法を学んできた姿勢と憲法・子どもの権利条約とのかわりに、次のように語りました。

私が弁護士になったのは、中学時代の社会科の授業で、憲法前文の暗唱をしたことがきっかけです。その後、大学は法学部へ進み、立憲主義について学びました。立憲主義というのは、憲法は国民が守るといふものではなく、権力者の権力を縛るといふ考え方です。安倍政権が戦争法を強行可決して立憲主義といふことが広まりましたが、私は大学で学ぶまで、全く知りませんでした。

憲法を作るのは国民、権利はもともと持っているもの、守ら



全体講演講師の宮本亜紀さん(写真右)と、講演会場(写真左)

第19回 枚方の教育を語り合う父母・市民と教職員のつどい



なければならぬのは権力者です。憲法のさまざまな条文の中でも、憲法第13条の個人の尊厳が一番大事ではないかと、私は考えています。それは、かけがえのない個性を大切にすること

「子どもの権利条約」にもつづき 意見表明権の尊重を

ありのままの自分を受けとめてもらいながら育った子どもは、自分も友達も大切にできま

1989年に国連で採択された「子どもの権利条約」は、日本も94年に批准し、発効しました。この中では、子どもが自分

「チャレンジテスト廃止」で 手をつなごう



吉川俊二さんの
開会あいさつ

枚方市議会による「廃止」意見書の採択はすばらしいプレゼント

連日、統計不正の問題で、「この国はどないなってるんや」と思うようなニュースが流れています。現実をしっかりと共有しないと、打開の方針が正しく見定まりませんね。

昨年12月25日に素晴らしいクリスマスプレゼントが届きました。それは、枚方市議会で「チャレンジテストは廃止せよ」との意見書が採択されたことです。私も府下のあちこちで、中学の先生方の話を聞かせていただきますが、いま、大阪の中学校で成績の伸びない子が「俺、休んだ方がええやろか」と言ったり、「あいつ、来たんか。これで平均点が下がる」と言われたりしているんだそうです。主義主張は違っても、「チャレンジテストの廃止」の一点で手を結び、子どもたちのために力を尽くそうではありませんか。

憲法を学んで、語っていきましょう

的人権であり、「一人ひとり、ありのままの自分でいいのだ」「あなたがあなたであるがゆえに、すばらしい」と尊重された個人が他の個人と尊重し合って、手をつなぎ合うことで公共社会をつくっていくと

日本の若者たちは、他国の若者に比べて、自己肯定感が低いと言われます。でも、国のために何かしなければならぬという気持ちも高いそうです。その若者に日本人としての誇りを押しつけても、自己評価は高まりません。将来に希望を持って生きるためには、憲法13条で示されている幸福追求権を最大限尊重していくことが大切

人は生まれながらにして自由です。思想も、表現も、です。それらの権利は、国から与えられたものではなく、人が生まれながらにして持っているもの

枚方教組臨時大会
2月22日(金)午後6時
市民会館第3会議室

全体講演の後は、三つの分科会に分かれ、それぞれの分野で論議・交流を深めました。《分科会の詳細は裏面参照》